

平成 18 年 9 月 11 日

3 号機原子炉建屋室内におけるダスト放射線モニタ指示値の上昇について

東京電力株式会社
福島第二原子力発電所

当所 3 号機は定格熱出力一定運転中ですが、平成 18 年 9 月 10 日午前 1 時 25 分、「ダスト放射線モニタ異常」の警報が発生し、原子炉建屋地下 1 階原子炉冷却材浄化系ポンプ*¹ (A) 室内に設置しているダスト放射線モニタ*² の指示値が上昇*³ していることを確認しました。現場にて調査したところ、当該ポンプ (A) の入口配管接続部の保温材から微量な水の滴下を確認しました。

滴下した水は約 20cc で、拭き取りにより清掃を実施しました。

その後、当該ポンプ (A) を停止したところ、ダスト放射線モニタの指示値が通常値に復旧しました。

今後、原因について調査し、必要な措置を講じます。

なお、主排気筒放射線モニタ*⁴ およびモニタリングポスト*⁵ の指示値に有意な変化がないことを確認しており、本事象による外部への放射能の影響はありません。

以 上

* 1 : 原子炉冷却材浄化系ポンプ

原子炉水中の不純物を除去し水質を維持する浄化系のポンプ。

* 2 : ダスト放射線モニタ

当該エリアの空気中の塵を集め、含まれている放射能を測定している計測器。

* 3 : 指示値が上昇

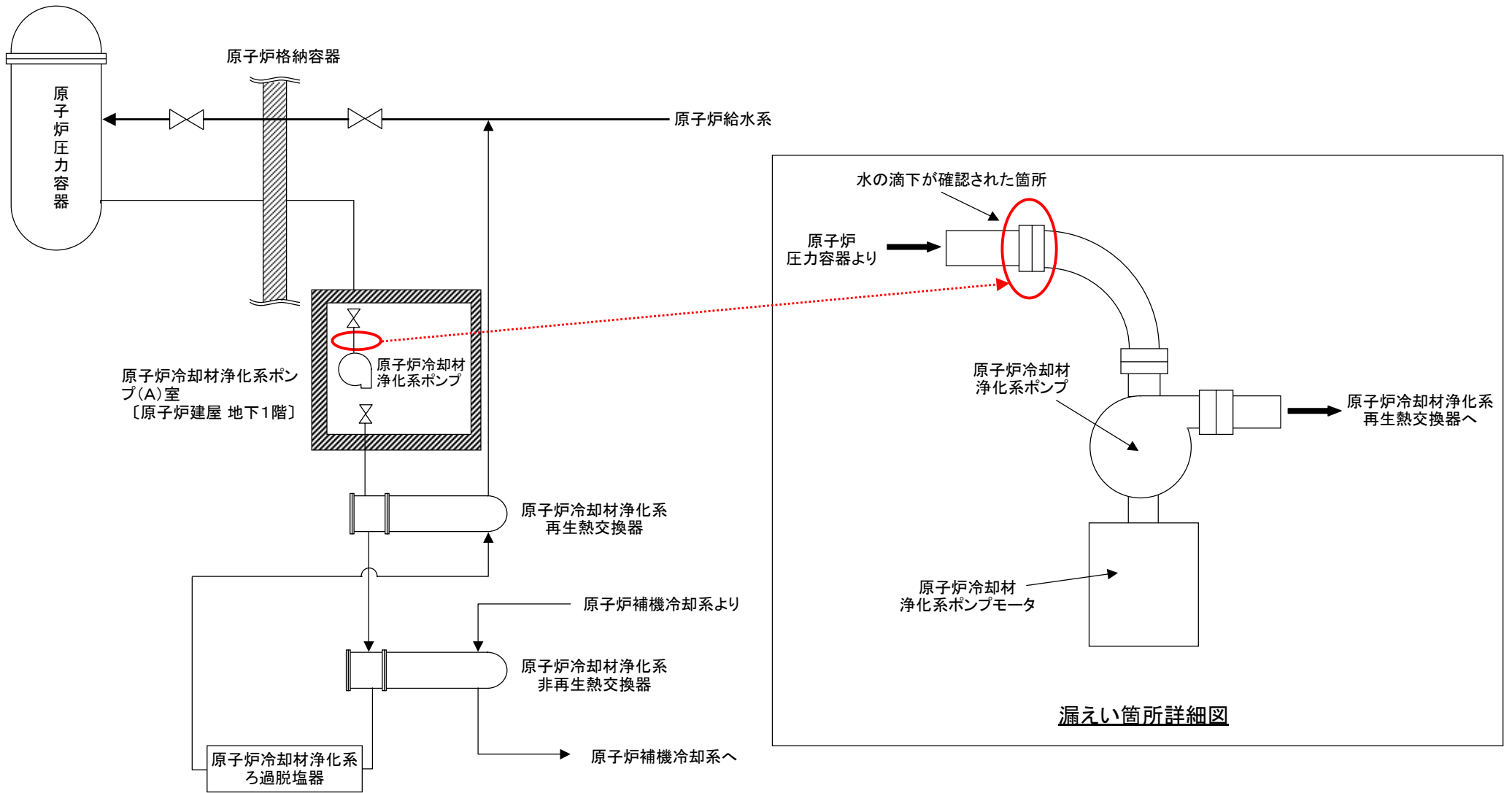
$4.74 \times 10^{-5} \text{ Bq/cm}^3$ 。なお、通常値は $1 \times 10^{-7} \text{ Bq/cm}^3 \sim 1 \times 10^{-5} \text{ Bq/cm}^3$ の範囲。

* 4 : 主排気筒放射線モニタ

原子炉建屋内の空気や復水器を真空にしておくための排ガス等、環境へ放出される排気中の放射線を測定する装置。

* 5 : モニタリングポスト

発電所敷地周辺に設置され、空間線量率を測定する機器。



3号機 原子炉冷却材浄化系 概略図